



目次

1. 障がい者支援プログラム
in ミャンマーYMCA
2. 路上生活から子どもを守る活動
in ジンバブエ
3. 気候変動会議
in マレーシア

日本 YMCA 同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7番
03-5367-6640

障がい者支援プログラム in ミャンマー

Y Care International 2014年12月3日配信

12月3日は、「世界障害者デー」です。障がいをもつ人々への理解を深め、障がいがあっても豊かに生きるにはどんな社会であるべきかを考え、啓発していくことなどを目的としています。その第一歩として、障がいへの偏見や差別をなくしていくことが重要です。

世界の様々な YMCA では、障がいを持つ人々に寄り添い、偏見や差別を受けることなくよりよい環境で生活できるよう支援をしています。例えば、ミャンマーYMCA では、Y Care International(イギリスにある国際協力を専門とする YMCA)のサポートのもと、障がいを持つ人々が十分な教育を受け、生きる力を身に付け、安定した職に就けるよう、支援プログラムを行っています。

Min Miyat さん(24)は 13 歳になるまでまともに学校に通うことができませんでした。生後 8 か月の時の感染症が原因で下半身の一部分が不自由となりました。また貧しい家庭に生まれたことや、障がいへの偏見や差別から幼少期には仲間外れにされることも多く、少しでも良い環境で暮らせるようにと、Min さんは両親の勧めによって修道施設に入ることになりました。施設では看護師などのサポートによって、10 歳を迎えるころによく歩けるようになりました。

心温かな人々の支えによって歩けるようになったにも関わらず、周囲からの冷たい視線は変わりませんでした。そんな中、Min さんは YMCA と出会い、まずは読み書きと基礎学力を身に付けようと勉強を始めました。そして現在は、YMCA のサポートを受けながら農業を行うようになり、月 20,000 チャット(約 3,200 円)の収入を得られるようになりました。今後 Min さんは引き続き YMCA のプログラムの下、エンジンの整備技術を身に付けようと計画しています。

“これまで文字の読み書きができなかったので、最初は何をするにも戸惑いました。けれど YMCA のプログラムに参加してから、多くの人とコミュニケーションが取れるようになりました。先生、友達、家族、地域の人達とコミュニケーションをとれるようになりとてもうれしいです。”



ミャンマーYMCA では Min さんのように、自信を持つためのびとその人の望む人生を生きることができるよう、様々な支援をしています。2013 年以降、Min さんの参加するプログラムでは 200 名を超える人達をサポートしてきました。今後は倍の 400 名を超える人達をサポートすることができるよう、これからも活動を続けていきます。

路上生活から子どもを守る活動 in ジンバブエ

アフリカ YMCA 同盟 2014 年 12 月配信

ジンバブエ YMCA では、家庭の複雑な事情や貧しさから逃れるために、路上生活をする子ども達を守るためのプログラムを行っています。

Tatenda 君 14 歳は、幼いころに母親を亡くし、薬物中毒の父親と共に暮らしていました。とても衛生的とはいえない部屋には、鼻を衝くほどの薬物や汚物のにおいが充満していました。経済的な貧しさゆえに、学校に通って勉強をしたいと思う Tatenda 君の願いは叶わず、中退をせざるを得ませんでした。そんな現実から逃れるために、Tatenda 君は路上生活を始めました。



ジンバブエでは Tatenda 君のように路上生活をする子どもは少なくなく、同年代の路上生活者が集まると互いに負の影響を与えあい、薬物や犯罪へと手を染めてしまうケースが少なくありません。特に思春期の子ども達にとっては、不安や喪失感を紛らわすために薬物や飲酒に依存をし、そこから抜け出せなくなってしまう子どもも大勢います。そうした子どもは、大人になっても不安定な生活と精神状態が続き、安定した職に就くことができず、貧しく不安定な生活が続く、という負の連鎖へと陥ってしまいます。ジンバブエ YMCA では、まずは子ども達がこうした負の連鎖に陥らないよう、安定した生活を送ることができるよう、カウンセリングなどを行い、子ども達を安全な環境、適切な教育環境へと戻す活動を行っています。

Tatenda 君も、路上生活を送る中で YMCA のカウンセラーと出会い、最終的には親戚の家で安定した生活を送り、さらに学校へ復学することができるようになりました。その過程では、Tatenda 君の父親も、YMCA のカウンセリングを受け、生活改善を図りました。子ども達の成長には、家族や地域社会の中で守られ、安心して暮らすことが重要であるとし、このプログラムでは子どもを取り巻く環境の整備を大切にしています。また、このプログラムは社会福祉省からのサポートもあり、官民一体となって子どもの安定した成長の拡充を進めています。

気候変動会議 in マレーシア

アジア太平洋 YMCA 同盟 APAY e-News 12 月号

2014 年 10 月 24～27 日にアジア太平洋地域の YMCA の代表者が集まり、気候変動会議を行いました。会場となったマレーシア・クアラルンプールには、約 20 名が集まりました。Jai Chang Park 博士(元 APAY 会長)を講師として招いたほか、貧困や環境問題に取り組む団体の関係者や、マレーシアの先駆的な環境保全活動を行う関係者なども参加しました。世界的な気候変動の状況や課題について学びを深めた後、参加者はそれぞれの YMCA で気候変動に対応するための大まかな行動計画を作成しました。そして、APAY として YMCA の今後の気候変動への対応を明確化する文書として、「クアラルンプール宣言」を作成しました。

『クアラルンプール宣言』(一部抜粋)

今日の気候変動は、直接的／間接的に人々の生活に確実に悪影響を及ぼしています。化石燃料の過剰利用により、



二酸化炭素が増加し、大気中の温室効果ガスが増加したことが、気候変動の主な原因とされています。

気候変動により、海面は上昇し異常な気象現象(雨季や雨量の変容や頻度の変化、猛烈な嵐の発生など)が世界各地で多発しています。これらは人間の健康や、自然の生態系、環境、経済にも悪影響を及ぼしています。これらの悪影響は、地球上に住む人間に不平等をもたらしめています。異常気象による被害を受ける人々の多くは、その異常気象をもたらしめている原因の二酸化炭素の排出量は多くありません。環境への負荷が少ないに関わらず、異常気象の悪影響をもっとも受けやすいというのが、現在地球上で起きていることです。

APAY は加盟各国 YMCA に下記の事柄の推進を求めます。

- ・ 二酸化炭素排出を抑える為、節電、資源の節約、リサイクル、再生可能エネルギーを最大限活用すること
- ・ 気候変動の認知度を高めるために、気候変動をテーマにしたプログラムを実施し、ユースを動員する
- ・ 気候変動をテーマにしたプログラムの為の、リソース・モビリゼーションを行い、YMCA 内部に十分なリソースや知識を集める
- ・ 政府自治体や、その他環境保護などに取り組む他団体との共同事業を行う

